

8月下旬、北軽井沢の混交林で出会ったカワラヒワです。カワラヒワ（河原鶉）はスズメ目アトリ科カワラヒワ属の鳥で、学名は *Chloris sinica*。全長約 14～15cm、スズメほどの大きさですが、太く頑丈な淡桃色の嘴と、翼や尾に入る鮮やかな黄色が特徴です。「河原にすむヒワ」の意味でこの和名がありますが、実際には河原だけでなく、農耕地、公園、住宅地、林縁など開けた環境に広く暮らしています。

この写真では、緑がかった頭部から褐色の背、ずんぐりした体形、そして翼の黄色い帯まで、カワラヒワらしい特徴がよく分かります。とりわけ目を引くのが太い嘴です。カワラヒワは植物の種子を主食とする「種子食」の鳥で、この嘴を使って硬い種皮を割り、中身を器用に取り出します。翼の黄色は飛翔するとさらに鮮明になり、数羽の群れが一斉に飛び立つと、黄色い閃光が林の中を走るように見えます。

春から夏には樹木の枝などに碗形の巣をつくって繁殖し、夏の終わりにはその年に巣立った若鳥も見られるようになります。写真の個体は、頭部の灰色味や全体の褐色味が強く、真夏を過ぎた時期であることも考えると、若鳥あるいは若い個体の可能性も感じさせる姿です。ただし、この写真だけから年齢を断定するのは難しいでしょう。

北軽井沢では深い森の内部というより、混交林の林縁や別荘地、草地などで出会いやすい鳥です。姿だけなら少々地味ですが、飛び立てば翼の黄色、耳を澄ませば「キリキリ、コロコロ」という特徴的な声——見ても聞いても意外に目立つ、森辺の小さな「河原鶉」です。

（2026 年 8 月下旬／北軽井沢）

